

来館型 わうくらす授業例

【目標】

- ① 動物が命あるものであり、気持ちがあることを理解する。
- ② 犬の気持ちを考えた接し方を実践することができる。
- ③ 捨て犬の現状を知り、終生飼養の必要性について知る。

【進行】

時間 (分)	内容	発問、具体的な流れ
3	参加者の紹介と注意事項	参加したメンバーの紹介。 犬はたいへん耳がよい動物です。静かにして下さい。
10	「生きている証拠」を考える 心音を聞く（心音拡張器）	「みなさんは生きていますか？」 「生きているってどんなこと？」 ・息をする・食べる・寝る・遊ぶ・勉強する ・うんちをする・走る・心臓が動く 「みんなの心臓の音を聞いてみましょう」 ・代表者の心音をきく 「生きているのは人間だけですか？」 ・動物も人間も同じように生きている。 ・犬の心音を聞く
15	犬の気持ちを考えた接し方を知り、実践する。	「生きているということは、ころがあります。」 「友だちになろうとするとき、相手の気持ちを考える事が必要です」 「犬の気持ちを考えてみましょう」 ・イラストをみて犬の気持ちを考える（よろこんでいる、おこっている、こわがっている） ・接することができる犬を説明する 「犬と友だちになってみましょう」 ・ひとりずつ接し方を実践する。
15	アニメーション映画 こいぬ物語視聴	（あらすじ） ある家族が安易に子犬を飼い始めたが、しつけをせずに育てたため、犬が成長するにつれ困った行動に振り回された。そしてその家族は山に犬を捨てた。 捨てられた犬は、自力で山を下りたがいろいろな危険な目にあい、ケガをしてしまう。そのとき親切なおばあさんに助けられた。 おばあさんは、助けた犬をマックと名付け、根気よくしつけた。マックはおばあさんとともに近所の住民に可愛がってもらえるようになったのだった。 *犬の目線で作成されているので児童が感情移入しやすい。 視聴後、センターから「マックは幸運にも親切なおばあさんと幸せに暮らすことができましたが、和歌山県では、たくさん犬猫が捨てられています。捨てられた犬猫のことを考え、どうしたら捨てられる犬猫がいなくなるのか、考えてください」